

フューチャーデザイン・ワークショップ開催報告

はじめに

本市は、合併により同規模の自治体に比べて、所有する公共施設の数が増え、機能的に重複する施設が複数存在しており、施設自体の老朽化が進んでいます。また、人口減少による市税収入の減少、高齢化社会の進展に伴う扶助費等の義務的経費の増大などにより厳しい財政状況が見込まれる中、将来の負担を軽減・平準化していくためには、公共施設を適正な規模に見直していく必要があります。

また、公共施設（建築物）の寿命はおおよそ50年、一旦造ってしまったものは長期間に渡り影響を与え続けます。ある時点での要求に応じてばかりいると、将来、思わぬかたちで重荷になることがあります。公共施設の在り方について、現在の我々の視点だけでなく、将来の市民の視点からも考え、現在と将来、双方の利益を総合的に考える必要があるとの認識に立ち、将来世代の視点や利益を踏まえたビジョン形成や意思決定を行うための方法論である「フューチャーデザイン」を活用し、市民のみなさんとともに公共施設の在り方を話し合いました。

ワークショップ開催概要

(1) 第1回

日 時：2020年1月19日 13:30～16:30

場 所：西条市役所 本館5階 502会議室

参加者：8人

テーマ『現在世代から公共施設を考える』

- ・公共施設に関する概要説明【市役所事務局】
- ・現在世代の視点から公共施設を考える【ディスカッション①】
- ・現在から過去の人々へメッセージを送る【ディスカッション②】
- ・フューチャーデザインとは（講演）【西條教授】

(2) 第2回

日 時：2020年2月16日 13:30～16:30

場 所：西条市役所 本館5階 502会議室

参加者：21人

テーマ『将来世代から公共施設を考える』

- ・未来人になるためのレクチャー【市役所事務局】
- ・「どのような固定観念にしばられていたか？」【ディスカッション③】
- ・「2060年の公共施設はどうなっているか？」【ディスカッション④】

■フューチャーデザインとは

私たちの社会を構成している「マーケット（市場）」や「デモクラシー（民主制）」は、目の前にある欲求を実現する優れた仕組みではありますが、将来世代の利益は考慮していません。二酸化炭素排出量の増大と地球温暖化、先進国の公的債務の増大など、現代社会は将来世代の資源を奪うことで今の豊かさを維持しているとも言えます。目の先の利益を追求するだけでは、自然も社会も持続可能ではなく「未来への責務」を果たせません。

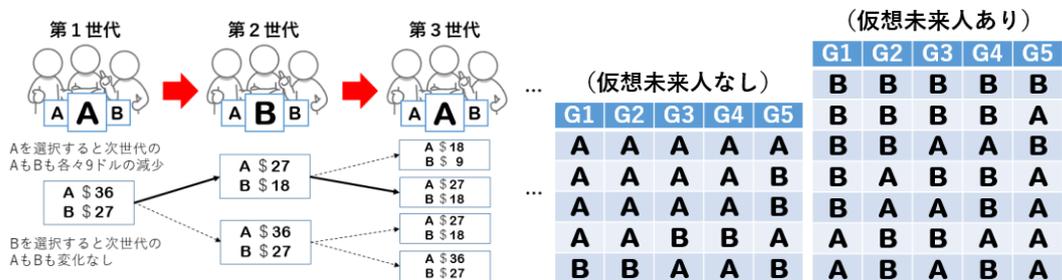
フューチャーデザインは、このような認識に基づき、将来世代の視点で政策を評価し、意思決定を行うことを目指しています。現代世代の意思決定の影響が数十年以上続くような課題でも、将来世代はそれに参加できません。そのジレンマを解決するため、将来世代になったつもりでの「仮想未来人」を意図的に創出し、議論に加わってもらいます。

大学での実験や自治体等での実践からは、仮想未来人になってもらうと、将来世代を豊かにするのなら今の利得が減ってもかまわないという意思決定が見られるということがわかってきました。岩手県矢巾町の事例では、現代世代から子ども医療費無料化の提案に対し、仮想未来人になった将来世代からは「自分たちの子どもたちに将来負担がかかってくるのだったら嫌です」とまったく異なる意見が出されました。京都府水道事業の事例では、現代世代からは、水道事業には耐震化が大切であり強く長持ちするパイプの開発が重要だとの提案に対し、将来世代では、いずれ大震災が起き、水道管が壊れてしまう。全てを直すことができないので、池に水を貯めその水を浄水し供給する。浄水器を使って飲めるようにする。このようなストーリーを描き、そのためには、安価な上水技術の開発が重要だとの提案がなされました。

このように、現代世代は、現状の課題や満たされないニーズから議論が始まり、現在の制約の中でアイデアを出す傾向にあります。一方、将来世代は、地域資源や長所に着目し、地域や社会全体の最適性の視点から議論し、独創的かつ具体的なアイデアを出すという特徴が指摘されています。

<世代間持続可能性ジレンマゲーム>

3人が集まり、Aを選択すると36ドル、Bを選択すると27ドルもらえ3人で分けるという実験を行います。もしAを選択すると次の世代のAもBも9ドルずつ減少し、Bを選択すると次世代のAもBもそのままという条件を付けます。更に、グループに一人「仮想未来人」の役割を与え次世代以降の人々を代表して、残り二人と交渉する実験を加えました。その結果、仮想未来人がいない場合に「B」を選んだグループの割合は28%であるのに対して、仮想未来人という仕組みを導入すると「B」の選択が60%になりました。



(高知工科大学西條教授講演資料より作成)

【ディスカッション①】 現在世代から 2060 年の公共施設を考える

現在世代から公共施設を考えるセッションとして、本市の公共施設の現状や整備の歴史を振り返ったうえで、今の視点や利益から公共施設の在り方を話し合ってもらいました。通常のワークショップと同じ手法による話し合いを行いました。

第1回

グループ・ディスカッション ①



① 2060年の公共施設はどうあるべきか？

A 初回ということで、自己紹介からお願いします。

【50分】

B 公共施設はどうあるべきか？

ア. これからの各公共施設をどうするか？

(例えば、集約・複合・用途変更・廃止・建替え等)

イ. 時期や配置も考えてみましょう。

5

《1班の討議内容》

合併したことにより、同じような公共施設が各々の場所にある。維持費がかかるということもあり、全部残すのも現実的ではない。だから、今ある公共施設に対しての必要か不必要かという見直しはしていけないといけな。減らさないといけななら、優先順位つけて減らしていくしかない。減らせないものに対しては、維持費を減らす、具体的には貸し出しや民間との共用でランニングコストを下げる。ランニングコストの一部の人件費については、自動化により削減可能になる。新しく作る場合については、コンパクトシティを考えた配置にする。以上のような意見が出されました。

第1回

1班の発表



・五百亀記念館必要？

・五百亀は何をしているのかわからない

・民芸館必要？

・五百亀と民芸館を一緒にするとよいかも

・民芸館イベントをして収入を得る

・民芸館仮オフィスにしたら

・減らすのも大切だがほかの利用も考えないといけな
作るだけでなく後のことも考えない

・今後の人口動態を考えないといけな

・施設(文化のなども含め)をどんどん縮小していくべき
集中させるべき

・民芸館の意義がわからない

・スポーツ施設多すぎでは？

・スポーツ施設の立地が悪い(駅から遠い)

・2市2町合併したときの状態のまま残っている
合併後の西条市で再配置

・車(マイカー)は必要ない？

・自動運転 公共交通

・電柱の地中化

・優先順位をつける

・ランニングコストを下げる

・自動化して職員を減らす

・コンパクトシティの方向で

7

《2班の討議内容》

公共施設がまず、市全体で見てプールが3つあるので、一つぐらい無くしてもいいと思う。合併したときにみんな平等にあったものは、減らしていくという方針は別に悪くないと思う。必要ないもの、無駄を省いていく。効率化するために、複合的な施設を作っていく。再利用できるところはして、人材育成とか食の関係も、特化出来るところは特化する。特化していかないところは、省いたり壊す。ここ10年で災害も増えているので、耐震化とか防災とかそういう観点で、残しておく施設を考える必要がある。市内のエリアで特色があるので、その特色を活かしたものを残していく。テクノロジー系も必ず発達するので、みんなが使えるようにしないとイケない。格差が生じてはイケない。人と人の繋がりが必要なので、交流の場所は必ず作らないとイケない。以上のような意見が出されました。

第1回

2班の発表



- ・2060年の社会を逆算して考えるべき
 - ・使えない世代も使えるようなシステムづくり
 - ・自由な経験ができる(子供～高齢者まで全ての人が使える場所)
 - ・人口減少を想定したまちづくりが必要
 - ・複合型の施設がよい(いくつもの施設は不要)
 - ・プール3つは必要?という話を聞いたことがある
 - ・特化した施設(クライミング施設)があれば外からも人が集まる
 - ・合併したが2市2町、それぞれ特色がある そういったものを残していってほしい
 - ・高齢者など、近くにない不便な施設は残してほしい
 - ・急速な時代の変化についていけない
 - ・子供が自由に遊べる場が少なくなった
 - ・高齢者は外に出るだけでも違う
 - ・外へ出なくても対策は色々ある
 - ・循環型社会の実現
 - ・地域で助け合える社会にならないと持続可能にならない
- *無駄をはぶく、統合化していく
耐震、防災の関係を考慮する
2市2町の特色を残していく

8

【ディスカッション②】現在から過去の人々へメッセージを送る

次に、過去50年間の公共施設の整備について、現在から過去の人々へメッセージを送る話し合いを行いました。これはバストデザインと言い、現在世代から過去世代に実際とは異なる世の中の姿を想像しリクエストを送ることは、時間軸を平行移動させることで、将来世代から現在世代にリクエストを送りつつ将来の世の中の姿を想像することにつながります。

第1回

グループ・ディスカッション②



②現代から過去の人々へメッセージを送る。

【30分】

A 過去50年間の公共施設整備を振り返り、
2020年から当時の人々へメッセージを送りましょう。

ア. 感謝、意見、どうでもよかったこと等を話し合いましょう。

「〇〇をしてくれて、ありがとう」

「〇〇をしてほしくなかった」「〇〇をしてほしかった」

「〇〇をしてくれたけど、今となってはどうでもよくなっている」

9

《1班の討議内容》

感謝したいのは、図書館を綺麗にしてくれたこと。図書館が綺麗になったことで、以前より行きたくなる場所になった。アクアトピアとして親しみある水辺の景観になっている。学校にエアコンをつけてくれたこと。教育は大事なので教育の改善に繋がりがよかった。もっとあったらいいものは、フィットネス施設。不満型としては、温泉は市がするものではなく民間でいい。以上のような意見が出されました。

第1回

1班の発表



- 感謝**
- ・市役所、役割的にも…大ききょうどいい、シンボリックになっている
 - ・西条図書館をキレイにしてくれたよかった
若い子がいて、自分の知らない世界をしれる たてものが映え
 - ・図書館のまわり(アクアトピア水系)人を案内するのに最適
 - ・児童館(駅西)が良い 小さいころ家族でバスで行っていた
 - ・駅前キレイにしてくれたよかった 昔あったSLは鉄道歴史パークへ!
- 意見**
- ・駅の時計がなくて不便!
 - ・↑松山のハト時計みたいなのがいい
 - ・考古歴史館はなくてもいい 市民の森と何かレンゲイしたらいいのに
展示物も変わってないし、自動ドア壊れている
- どうでもよかった その他**
- ・時報の音楽はいい ・ここですこまつは
 - ・東予・丹原…1ヶつの学校もある こどもが!

第1回

1班の発表(続き)



- 感謝**
- ・学校のエアコン! 使えないと健康被害 (電子黒板、タブレットで発熱暑い) 教育は大事
- 意見**
- ・学校はアナログすぎ(でも先生も大変) 点つけする専用の人が必要
 - ・こどもの国… 「やっちゃいけない」が多すぎ
 - ・公民館(大可、西条、神拝)大可会館など似たものが多い ⇨お年寄りはいきいいになる
 - ・市報はペーパーレスにすべき ⇨紙で見るものたのしい、初期投資も大きい
 - ・“前年通り”がキーワード 西条は保守的
 - ・やり方を変えると反発がすごい→例)おひまの集金
 - ・小松の湯…行政がわざわざ温泉つくらなくていい (つばき交流館、本谷温泉)
 - ・十河信二記念館はいらない
 - ・駅をキレイにして 駅に喫煙所作って(分煙化)
- 行政として本来はいらんのでは

《2班の討議内容》

よかったものとして、図書館、ビバスポルティアや東予運動公園。古くても良い建物、歴史的な建物は残してもらいたい。温泉について、本谷温泉は評判が良い。キャンプ場、ふれあいの里も評判がよい。クライミングパークみたいに特色のある施設は、特色のあるものをドンドン打ち出して行くというのは、すごく良いと思う。考古歴史館は1回行けば次に行くことがあまりないので、人があんまり利用しないものは考えた方がいい。市が合併したということもあり、また現在とは価値観が違うので、これから人口減少になるので、その辺は見直して行く必要があるかと思う。テニスコートが多いという意見もあったが、人材が育成されているなど施設がちゃんと利用できるように維持していくのであればいいのではという意見になる。使わないとか、人口減少があるところは段々省いて行くことが必要。歴史的な人物を紹介するような建物が多く施設がいるのかどうかは、疑問が残る。新しい施設に関しては、集客とか利用率が高いので、良いと思う。しかし、費用対策や費用効果がどうなの

12

か考えるべきということと、施設の集約。宣伝方法。西条の人に限らず利用できるような形にするなど。モンベル近辺は、もう少し賑やかになればいい。ふれあいの里にはすごい専門家の人がいる。そういうのをお手本にして現役を引退された人とかでもいいし、すごく何かそのことについて知っている人（語り部）が、施設にいていろいろな事を説明してくれるといいのではないかと。以上のような意見が出されました。

第1回

2班の発表

感謝	意見	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館周りは良い。 ・ピバスポルティア 他にない人工芝 ・古くても良い建物がある。 歴史的な建物は残す。 (郷土博物館) ・本谷温泉(泉質が良い) ・キャンプ場(穴場) ・ふれあいの里 自然施設が良い 地域の特色を活かしたもの ・クライミングパークSAIJO 	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲の市民が利用できたらいい。 ・ワクワクしない施設(暗い施設) ・五百亀記念館は入ったことがない 運用面を考えてほしい(建てるだけじゃだめ) ・考古歴史館はあまり行かない ・一度入ったら展示内容が変わらない ・80年代の人口が減りだしてから 建物が多く建ちはじめている ・良い建物(施設)があっても知らない所がある ・西部公園のテニスコート多い… ・使わない施設はいらない(暗くて入りにくいetc) ・深い施設減が必要 ・ノウハウを持っている人を活かせる施設を ・実際に使っている人の意見が聞きたい(通村通所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設は集客・利用率高い ・費用対効果を考えるべき 施設の集約 ・合併後の施設目的の変化 ・人口変動に対応できない? ・近隣のお寺等、良い建物がある ・歴史的建物が少ない ・次から次へと店舗が消えていく ・特色のある施設が必要 ・温泉、モンベル ふれあいの里 ・人材活用 ・施設は人による

13

将来世代から公共施設を考える

フューチャーデザイン・ワークショップにおいて、実際に未来人になる経験をした方の追体験ができる紙芝居を視聴し、未来人になるということがどのようなことか感じていただきました。

第2回

未来人になるレクチャー

<真由美さんの場合>

「高齢者は小中高の画一的な**学校制度を当たり前**と思っている」
⇒「そのような人たちも将来人になれば、そんな**常識を捨て去ってしまう**」

<ひとしさんの場合>

「**人が空を飛ぶなんて**、上手に将来人になっているなあ！」
⇒「**夢の技術がなくても**若者と高齢者が一緒になるワクワクする
仕組みを考えればよいのでは？」

4

【ディスカッション③】どのような固定観念にしばられていたか？

参加者のみなさんには、2060年の西条市に今の年齢のままでタイムスリップしてもらい、2060年から40年前の2020年を振り返ってもらいました。2020年を振り返ると、西条市

以外の地域では、新しいタイプの公共施設が生まれつつありました。当時の西条市は、公共施設について、どのような固定観念にしばられていたか、未来人の視点から話し合っていました。

フューチャーデザインのワークショップにおいて討議参加者たちが将来の姿についての独創的なアイデアを発想する場合、そのような発想は現在の社会のありようを何らかの形で反転させることで実現することが分かってきました。仮想未来人として将来の姿を描くのに先立ち、ここでは、現在の社会において当たり前と思われている事柄を相対化するというトレーニングのセッションを設けました。

第2回 🧠

新しいタイプの公共施設



午前 午後

新潟県のある市の学校給食センターでは、学校給食の調理以外の時間を使って、民間企業が総菜の製造などを行っていました。

企業は市に使用料を払い将来の施設修繕に充てられていました。子どもたちの健康と成長のために、財政面でも将来を見据えながら、安心・安全な給食を届けていました。

第2回 🧠

新しいタイプの公共施設



熊本県のある町は、端末上で電子書籍や新聞記事が見られる「タブレット図書館」を設置することを決めました。町には図書館がなく、新設も予算的に困難でしたが、電子化なら大幅にコストが抑えられました。

町長さん曰く「必要なのはハコではなく、読む環境。電子図書館には無限の可能性がある」とのことでした。

第2回 🧠

グループ・ディスカッション ③

**③2020年の西条市の人々が、
どのような固定観念(常識)にしばられていたか
教えてあげてください。 【45分】**

A 公共施設とはどういうものかと思い込んでいたか？

ア. 「公共施設は〇〇であるべきだ」
イ. 固定観念を拭くと、どのようなものが想定できていたか。
ウ. 2020年の事は過去形で、2060年は現在形で話して下さい。

例) 《誤》「2020年は、東京オリンピックがあるよね」
《正》「2020年は、東京オリンピックがあったよね」

《1班の討議内容》

学校は地域に一つないといけないとか、制服があった等の固定観念があった。固定観念を拭くとどのようなものが想定できていたかという、公共施設は、民間とお金を出しあって、共にビジネスもやっていくという場所になっている。例えば、図書館は本を読むことよりも人と交流する場所になり、コーヒーショップが併設され、たまに映画が上映されたり音楽会が開かれたり毎日人が集う場所になっている。学校は、通って学ぶものというところから、オンラインで通信教育みたいになっている。健康診断は行ってするものから、家にキットが送られてくるようになっている。結果、福祉センター的な施設はなくなる。以上のような意見が出されました。



- ・学校から話に入っていきの良かったかな…
- ・制服があったetc
- ・お金の話…認証の話…
- ・図書館はカードが必要だった
- ・アニメの認証もあった
- ・図書館は人の集まる場所だった
- ・今から考えると、言葉が多かったよね
- ・学校はなくなってきた…
- ・今は1つの建物で多用途となった
- ・公民館は減ってきた…
- ・学年、クラス概念があったよね
- ・目的が決まりすぎてた
- ・目的外使用が無理だった
- ・法律がきびしかった
- ・福祉センターは行かなくなった
- ・公共という概念があった
- ・図書館で勉強してた
- ・学区がしっかりあった
- ・テレワークができてなかった
- ・昔は勉強の仕方が固定されてた
- ・スポーツ施設が個別に分かれてた
- ・一回複合したよね

12

《2班の討議内容》

公民館では営利活動はしてはいけないとか、公共施設自体が、行政が運営するべきもの。学校は各地区にないといけない。決まった時間に活動している。などの固定観念があった。

固定観念を拭くとどのようなものが想定できていたかということ、公共施設が便利に利用できる場所ができると地区に教育施設は1個ないといけないなどの固定観念はなくなる。大学までが義務教育。必要なものは必要ところでサービスとして提供されるので、施設（建物）自体が必要なくなり、必要なものは地域で賄われる。教科書はタブレット。フレックス制になり、自由に使える公共空間に自由に出入りしている。高校時点で、大学のよき好きな教科を選んで取る選択制になっている。以上のような意見が出されました。



- ・公民館では営業してはいけない
- ・後継ぎをしなければいけなかった
- ・地区毎に各分野の施設があった
- ・各地域に様々な建物があった
- ・施設の利用にあたって服等の制限があった
- ・公共施設=行政という観念があった
- ・施設の利用(方法等)に制限があった
- ・学校(仕事)も朝から行かないといけない
- ・学力(偏差値)で判断していた
- ・やりなおしがきかなかった
- ・色々な公共サービスがあった
- ・民間でもできる事を公共でやっていた
- ・その場所に行かないと公共サービス施設利用できなかった
- ・家の近くに公民館がなかった
- ・公民館あっても利用しなかった
- ・学校に教科書をもっていった
- ・教育カリキュラムが組まれていた
- ・集まる場所があった

13

【ディスカッション④】2060年の公共施設はどうなっているか？

引き続き、2060年の西条市にいる将来人の視点から「2060年の今、公共施設がどのようなになっているか」を話し合っていました。



④ 2060年の公共施設はどうなっていますか？

A 次のような視点から話し合ってください。

ア. 2060年の西条市はどのようになっているか？

イ. ア) を踏まえ、公共施設はどのようになっているか？

【60分】

19

《1班の討議内容》

2060年、情報社会になって人と人との繋がりが希薄になっている。そこで、公共施設が、人が集える場所、人と繋げる場所を担っている。また人口が減ったことにより、税収が減少し、行政もある程度民営化し、公共施設を運営するのは、公務員の仕事ではなくなっている。基礎的な仕事は全部AIがやってくれていて、税金も確定申告も全部電子データで決めて取られる仕組みになっている。また、公共施設に役割はなく、ひとつの施設で複数の機能が担われる複合施設に統合されている。一つになってコンパクトになっている。以上のような意見が出されました。



- ・人口は減少しているけど、西条は増える
- ・良い街になっている(人を幸せにする)
- ・農業日本一
- ・幸福度日本一
- ・ばらばらになりかけた情報を公共がつなげ直してる
- ・公共は民営化されてきた
- ・AI、電子データで成り立っている(ワンタッチ)
- ・テレワークが当たり前
- ・公務員がなくなってきた…
- ・お金もちちゃんと廻っている
- ・ハンヨウ性が増えてきた
- ・施設が簡略化、縮小化
- ・個人情報簡単にカンリされている
- ・情チョがなくなったネ…
- ・コンパクトシティになっている
- ・学校以外のコミュニティができてる
- ・道路はなくなった
- ・学区割りがなくて、複合化された
- ・新しい文化施設ができた
- ・公共施設が民間に売却された…
- ・学生の起業家が活やくしてる



- ・学生の多い街になっている
- ・他の地域の学校の勉強ができる
- ・ギム教育が無くなった
- ・高校はなくなった
- ・先生が減った
- ・学校で授業受けなくなった
- ・カタカナいっぱい
- ・アナログ作業に力を注げるようになってきた
- ・丹原廻りがサイクリングスポット
- ・丹原すごいネ…
- ・同級生との話は昔と変わらない
- ・場所の関係性が変わってきた(固定)
- ・全国の大学生が西条に集まってきた
- ・施設内でタライ廻しに合わなくなった
- ・AIが大活やく(siriのように…)
- ・ベッパー君が大シンカ
- ・情報カク差がなくなった
- ・ハードは変わってないけどソフトが変わった
- ・地震対策できた
- ・水位が上がって大変…
- ・避難所の概念なくなった
- ・「水色の街」になった
- ・どこでも地下水が飲める
- ・世の中、大きく変わってきたネ
- ・大学安くなったよネ

22

《2班の討議内容》

市役所に行かないといけなかったものがオンラインで出来る。耐震基準を満たしていない建物はなくなり、人も少なくなり年代を超えてみんなが使える施設、活用できる施設だけが残る。世代間交流ができる場所となる。公共と民間の垣根がなくなり、自由に使える施設で人と人が繋がり、活動が循環する。公共施設がテーマパークのようになる。公共のテラスハウスがあり公共の大家族みたいになり、みんなが支え合っている。以上のような意見が出されました。

第2回

2班の発表



<ul style="list-style-type: none"> ・広いスペースが必要な施設は残っている ・市役所は小さくなっている (パソコンがあればできる窓口業務も少なくなっている) ・活用できる施設のみお金をかけて直すものは必要なものだけ ・様々なかきねがなくなっている ・少ない人口で多くの施設費用を出すのはキツイ ・民間+公共で力を合わせて商売(特化できる施設)時期、旬なものが集まる ・知識の共有(交流)できる施設 ・自習スペース+αの施設(カフェ、休憩) ・民間を支援する公共施設 ・老人クラブの利用増→公民館 ・公共のテラスハウス(カップリング) ↳公共で支援して子育て 空家の利用 ・学生が企業している(ビジネスをしている) ・外に出て学んだ若者が帰ってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクワクした西条市になっている ・プールは1つになっている ・全天候型のプールが3つある ・市のトレーニング施設(ジム)はなくなっている ・就活サポートしてくれる施設(適性検査、情報を集めてくれる場所) ・経験してきた事を伝えることができる施設(まわりがサポートしてくれる、市民同士で助け合い) ・起業、お金について教えてくれる所
---	--

- ・20年前はどうなっているか
- ・ワープロが打てるか
- ・老人クラブ探す

23

ま と め

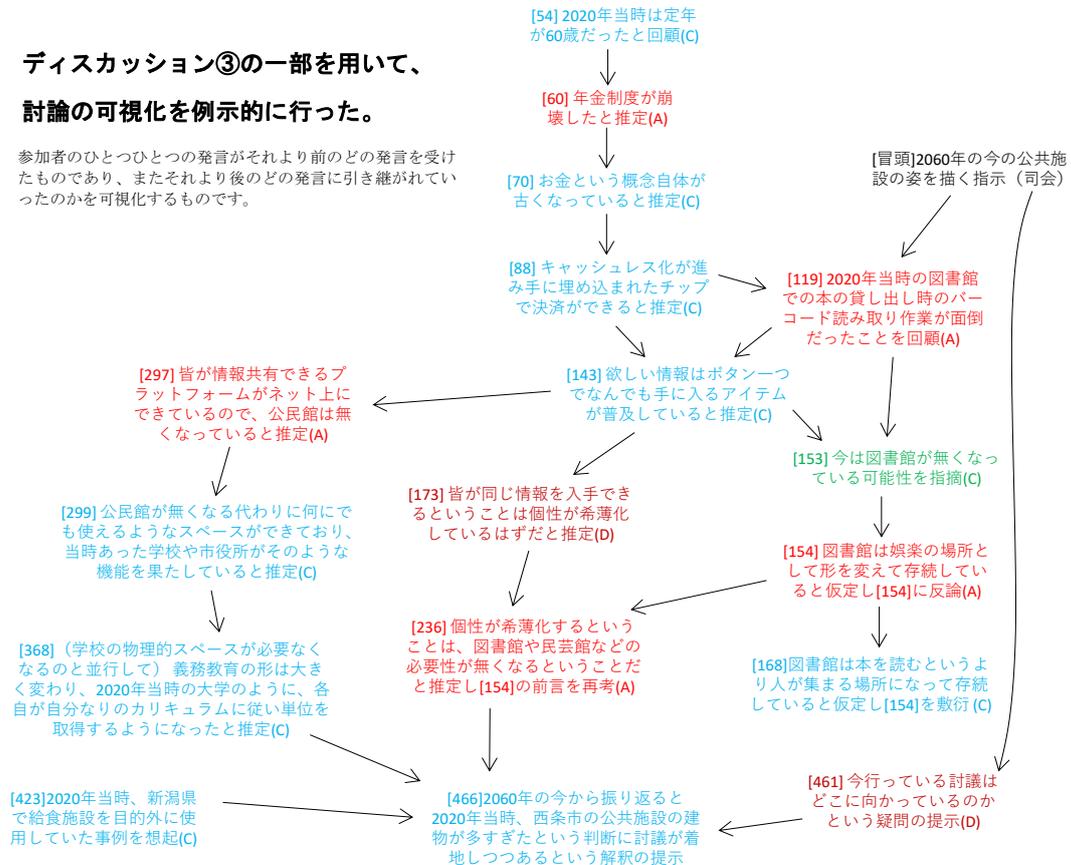
現在世代では、公共施設が多く老朽化が進んでいるという現在の問題点から議論がスタートし、施設削減や維持費の削減、また削減するうえで、どのような観点から進めるべきかといった内容で議論が進められました。一方、将来世代では、図書館が本を読む場所ではなく人と交流する場所になり、市役所の行政サービスがオンライン化され役所自体が半分になるなど、従来の公共施設の在り方を覆し、新たなかたちを想像するような議論に発展していきました。

	現在世代	将来世代
第1班	公共施設や維持費の削減が必要だ。 <ul style="list-style-type: none"> ・全部残すのは現実的でない。 ・優先順位をつけて減らしていく。 ・減らせないものは維持費を減らす。 ・自動化で人件費を減らす。 	公共施設は人が集える、人とつながる場所になる。 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館は本を読むことよりも人と交流する場所になる。 公共施設とサービスが分離されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断は施設で行うものでなく、自宅に診断キットが送られ、福祉センターがなくなる。
第2班	公共施設削減を議論する観点が重要だ。 <ul style="list-style-type: none"> ・効率化するため複合的な施設にする。 ・特色あるものを残していく。 ・テクノロジーが発達しても利用に格差の生じない施設が重要だ。 	技術革新や人口減少で物理的な施設は減っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・世代を越えてみんなが使える施設が残っている。 ・住民票はオンラインで取得でき市役所は半分になる。 自由度の高い公共施設が1つできる。 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や勉強がどこでもできる

■ 討論から知見を引き出す可視化

ディスカッション③の一部を用いて、
討論の可視化を例示的に行った。

参加者のひとつひとつの発言がそれより前のどの発言を受けたものであり、またそれより後のどの発言に引き継がれていたのかを可視化するものです。



【解説】

第1班のディスカッション③の前半部分を、上記の通り、可視化した。矢印は、ある発言が、別の発言を促したと解釈できる場合に引いた。また、同一参加者の発言は同一の色で表示した。この可視化結果の中に、未来人が公共施設のあり方について討議する際の特徴が明瞭に表れていると考えられる。

この班は、当初、定年制や年金やキャッシュレスについて討議し([54, 60, 70, 88])、2060年の概況を描きだすことからスタートし、情報化が加速した社会を想定した。その後、冒頭の司会者からの指示を思い起こし([119, 153])、情報化の加速が図書館の形を大きく変えているであろうことを推定した([154, 168, 236])。ただし、この時間帯においては、図書館の形についての班内での合意はまだ形成されていない。一方、情報化の加速は公民館、学校、市役所といった各種公共施設が物理的スペースを必要としない状況になるという議論を生み出した([297, 299, 368])。こうして、ごく自然に、2020年に当然だった公共施設に対するイメージを払拭する議論に帰結した([466])。

この議論が例示しているように、未来人に公共施設の在り方を議論するよう依頼した場合、彼らは公共施設そのものを描くというよりは、その未来における西条市や日本社会全体の在り方にまで議論のスコープを一旦広げ、それと整合するよう、与えられた課題(今回の場合は公共施設の在り方)を合理的に検討する傾向が強い。仮にそこからなされた現代(今回の場合2020年)の人たちへの提言が、現代の人たちに一時的な不便を強いるものであったとしても、未来人は躊躇せず提言をするのは、自らが導きだした提言が持つ合理性に自信を持っているからなのである。

(高知工科大学中川准教授提供)

その他

本ワークショップでは、現在世代との対比はありませんが、将来世代の回のみにも市民や高校生等にご参加いただきました。その方々（第3班から第5班）のご意見をご紹介します。

【ディスカッション④】2060年の公共施設はどうなっているか？

《3班の討議内容》

超高齢化は落ち着くものの人口は減少する。限界集落はなくなったところもあるが、そのようなどころをおもしろいと人が移り住んでいる。人口が減るが故に、高校生がお年寄りに教えたり、子どもが働く大人を見たりなど、さまざまな世代が集まれるコミュニティの拠点ができている。以上のような意見が出されました。

第2回

3班の発表



- ・超高齢化がおちついてきた
人口はへってきたので絶対数はへった
西条にこころはふえた。2020年に移住ランキング1位
→そこからファミリー層、若い人多了くなった
活気づいたま、20年前からあたらしいことがスタート
ことも増えたから。
- ・限界集落は…なくなったところもあるが、
そういうところがおもしろいと人が集まってきている
昔からあったところに新しい世代が入ってきている
しばらく考えが変わった。今は山間部でも不便じゃない
キョリ感なくなった。逆にそこを面白がる人ふえた
- ・使われていなかったしせつ→シェアオフィス
コミュニティの拠点に。住民じゃなくても外から来た人が
気軽に入っていけるスペースになった
みんなが使えば資金もまわる、老朽化しても修理
1つのユートピアみたいに
さまざまな年い層あつまれる
生涯学習があたり前、高校生がおとしりに教えたり
子どもが大人の働く姿をみたりしている
ともだちとあそぶ感じてそういうところ行く。
いろいろニーズにこたえて公共しせつが発達
- ・道路がない→キョリ近くなった、山でもどこでも気軽にいける川に橋なくても
・何でも効率的になった
・シェアされるのが当たり前しせつ、シェアの感覚が当たり前
企業専用のバスとかなくなりみんなが使える、日常で
- ・日替わりの気分、いろんなものえらべる、気軽に！
・「個人で」もつものから「みんなで」もつものに
シェアハッピー→それがふつうになった
化石燃料は過去のもの お金の概念なくなった
- ・学校→居酒屋、伝統工芸、こどもあそべる…などなど
・学校はない、たまにあつまるくらい
・移動が早くなりういた財源で公共しせつが充実
民間のうん営から公共へ、みんなが安く使える
- ・みんなが気軽に旅できる (旅館)が複合のスペースへ 駅なくなった
- ・ホール→デバイスで見れるようになった 今は電気
・消防、救急は民間になった、火を使う事がなくなったから火事がリスク
昔は家事を水で消した…今は脚立館でみるくらい
- ・しせつ、人が多いところ、少ないところに応じてできた、まちの形はのこっている
利用の仕方が変わった
- ・自給自足がふえた、防災、時間コスト(買物移動へつ)好きな場所
自分で育てたものは安心、都心から来た人はとくにそこに魅力
・物々交換、100~200年前に戻った感覚

24

《4班の討議内容》

授業がオンラインになり学校に行かなくてよい。買い物も受験も家でできるようになり、家から出る理由がなくなる。そうすると、わざわざ外出するのは、人間らしさを維持するために生の人と会話することが理由になる。施設はそのような場になる。以上のような意見が出されました。

第2回

4班の発表



- ・年齢をとばらったコミュニティができて
小さい子からお年寄りまで同じ施設であそんでいる
- ・施設が老朽化して使えないものが増えている
- ・勉強全部タブレット
- ・校舎ない、オンラインで授業、学校いかんでいい
- ・家でなくていい、でる理由がさらになくなる
買い物、受験家でできる あそぶ時だけ
ドローンであそぶ
- ・1人1台 iPhone50
- ・物理的存在がなくなる
- ・メガネいらない すぐ矯正できる
- ・病気にならない AIが治してくれる 病院いらない
遊ぶために
外にでる
- ・現金が完全になくなる マリオの土管が市内
いろいろところにある 歩行者天国
- ・電車 自動運転 道路は車なくなる 人のためのものに
- ・1つの場所ですべてできる
昔はいろんな所を行きなさいけなかった
複合的な施設 何もないところにPCのように
ディスプレイが投影できる
人が固定の住所をもたない VRで自分が実際にゲームを
住みたいところに気軽に住める プレイ 戦ったり、リアルにできる
- ・各家庭にジムがある
- ・コミュニケーションは文字中心だったけど
動画でやりとりできる 見たい所に表示できる
- ・市や県概念がなくなる 唯一人とのコミュニケーション
ができる
- ・電気が太陽光などによる持続
可能な供給メイン ．ゲームセンターあつまる
年齢のカベがない
- ・VRでいろんなところに行ける
家いながら海外旅行 わざわざ外にでる理由
お年寄りが小さい子とかかわる
もつ人間らしくなるため
家におるとロボットになる
人との会話をしに生の人
あたたかさ
体験は会わんとわからない。
- ・図書館が逆に来てくれる
- ・バスやバレーのチーム戦
なくなってそう

26

《5班の討議内容》

図書館から本が無くなって、情報を集めて提供する施設になっている（図書館アプリができています）。図書館などに行けば職場にいかななくても仕事ができる。若い人から高齢者まで何かをやりたい人を応援してくれる施設ができています。以上のような意見が出されました。

第2回

5班の発表



- ア コンパクトなまちになった**
駅に通じる道が一つのショッピングモールの様になった
高齢者のための1つの地域で生活のすべてをまかなうことができる地域が増えた
2020年よりもカフェが増えてカフェのまちになった
カフェ専門や服専門などのビルが増えた
60才で退職したら戻ってくる流れができた
[AIが増えてサイバーセキュリティを取り扱う警察のような組織が増えた
5Gを活用したアクティビティな施設が増えた
AIなどを取り扱う先への就職者が増えた
- 空き家が無くなって新しいまちになった
農業者が公務員になった
[AIが病気を診断するようになった
健康づくりを自分でできるようになった
あらゆる場所で好きな食物を注文し
AIができるようになった
キャッシュレス決済が普及した
- イ 学校を中心に図書館、高齢者施設、ショップなども入っている施設ができた**
図書館などに行けば職場に行かなくても仕事ができるようになった
若い人から高齢者まで何かをやりたい人を応援してくれる施設ができた
どの年齢でもインゲンシップが受けて自分のやりたい事を見つけることができる施設ができた
いろいろな病気を調べる研究施設ができた
図書館から本が無くなって、情報を集めて提供する施設になった 図書館アプリの開発
学校に飛び級制が採用された 自宅で勉強できる
小、中、高校も大学と同じように自分でカリキュラムが組めるようになった
ペットホテルの管理などもAIが実施

28